

 書評

 兼本浩祐, 丸 栄一, 小国弘量, 池田昭夫, 川合謙介 編
臨床てんかん学

大澤真木子

一言で言えば、素晴らしい書である！ 国際的にも活躍中で著名な各分野のリーダーである5人の編集者〔兼本浩祐氏(精神医学), 丸栄一氏(基礎医学), 小国弘量氏(小児神経学), 池田昭夫氏(神経内科学), 川合謙介氏(脳神経外科学)〕による, 臨床現場で役立つてんかんの百科事典のような本である。数多くの執筆者は, 熱烈なてんかん学探究者であり, それぞれの分野で眼を輝かせながらそれぞれの視点でてんかんの真実に迫ろうと日々切磋琢磨しておられる。本文 653 頁, 英文索引 6 頁, 和文索引 11 頁, 図 228 点 表 116 点より成る。

「第1章 歴史的展望」では欧米, 日本, 分類, 外科治療の歴史が, 「第2章 てんかんの疫学」では疫学調査の方法, 成績, 今後の方向が, 「第3章 てんかんの病理学」では, 海馬硬化, 大脳異形成, てんかん原性脳腫瘍や周産期脳障害, 脳動静脈奇形, 海綿状血管腫など脳血管障害や先天代謝異常症が美しいカラーの図で説明されている。

「第4章 てんかんの生理学」ではキンドリング, イオンチャネル, シナプス伝達物質と受容体, グリア細胞や血液-脳関門の機能にも言及している。脳内環境のホメオスタシス, 焦点性てんかん, 欠神てんかんの神経機序が親切な図と新知見とともに整理可能で, 抗てんかん薬の作用機序の理解にも有用である。

「第5章 てんかんの遺伝学」では, 遺伝・遺伝子関係の用語解説から始まり, メンデル遺伝形式を示す疾患とてんかん, 先天的な構造異常(限局性皮質異形成, 異所性灰白質, 裂脳症, 神経皮膚症候群), 特発性全般てんかんと遺伝性の標準的な説明がある。

「第6章 徴候・訴えから考える鑑別診断」では, 鑑別診断は専門家であっても決して容易な作業でな

いことにも言及し, てんかん診断の特異性と醍醐味を「証言の積み重ねによって起こった出来事を再構築する裁判の判決のような作業」と初心者にも合点がいくように述べられている。症例の経過見取り図や, 初発てんかん発作らしい発作に遭遇したときの鑑別診断のプロセスが図示されている。けいれんという語の曖昧さや, 症候として脱力・転倒, 笑い・泣き, 意識障害・認知障害, 主観的訴えにも言及している。

「第7章 てんかん発作の症候学」では年齢と特異的てんかん症候群の分布図と解説もあり, 脳の発達に伴い発作が発生し年齢とともに自己解決するてんかん症候群の不思議に迫る。

「第11章 てんかんおよびてんかん類似症候群」では, 前者では反射てんかんが詳述され, また後者では, 心因性非てんかん性発作, 失神, 片頭痛, 一過性脳虚血発作, 一過性全健忘, ナルコレプシー, レム睡眠行動障害や発作性(非)運動誘発性ジスキネジアなどの状態にも記述が及ぶ。

「第15章 ライフステージによる課題とその対処法」では, 学校生活, 告知, ピア・カウンセリング, 就労, 結婚, 妊娠・出産, 運転免許, 公的助成制度, さらに親亡き後の介護にまで言及されており, 患者に真正面から向き合い全人的医療を考慮したもので, 臨床に役立つことを見据えた本書ならではの取り上げ方であろう。さらに, 医療連携(第16章), ガイドラインの特徴と使い方(第17章)にも言及されている。

(東京女子医科大学名誉教授)

●B5 688 頁 2015 年 11 月 定価: 本体
15,000 円+税 医学書院刊